

パネルディスカッション6

「消化器癌に対する低侵襲治療（ロボット手術、LECS）の現状と課題」

司会 北川 雄光（慶應義塾大学外科学）

後藤 修（日本医科大学付属病院）

根治性を担保しつつ低侵襲性を追求した消化器癌手術は、腹腔鏡下手術を経てロボット支援手術の実現をもたらし、その対象疾患が順調に拡大している。また、硬性鏡と軟性鏡のコラボレーションによる LECS は、胃粘膜下腫瘍に対する精緻な局所切除を端緒とし、胃癌や十二指腸腫瘍にも適応を拡げている。本セッションでは消化器癌に対する代表的な低侵襲治療手技であるロボット手術と LECS に焦点を当て、その現状と今後の課題について議論する場としたい。